



Nepal Blind Support Association

ネパールの視覚障害者を支える会会報

第22号 2008年10月 ネパールの視覚障害者を支える会 (NBSA)

NBSA : <http://NBSA.sakura.ne.jp/>

主内容：サビトリ・カルキの詩/現地活動報告/ネパールの働く仲間/ネパール大使館からのお知らせ/ネパールの水資源と電力事情/エベレスト・トレッキングの魅力/ネパールよもやま話・ネパール音楽の魅力/事務局便り

サビトリ・カルキの詩 「今こそ武器を捨てよう」

今こそ武器を捨てよう

もうたくさんだ

幸福とは何だったか 思い出そう

犠牲となった親、兄弟、親戚、そして
夫を亡くした妻と残された子ども達
なぜこんなに血の川が流れたのだろう

けものでさえ同類は殺さぬのに
どんな気持ちで同胞を殺したのだろう

人は死んでまた生まれ変わるのか
こんな人生は生きていても
死んでいても失うものばかり

(写真上：サビトリさん：下：お子さんとオセロで遊ぶ)



私はカトマンドゥの隣の市、バクタプルの小学校で教師をしている視覚障がい者です。以前から本を書きたかったのですが、手伝ってくれる人が見つからず、長い間草案だけを暖めてきました。

幸い、ラメッシュさんが私の話すことばを全部書き留めて、詩集という形で本を出版できました。自分で書いたものを世間に発表することは、ネパールの視覚障がい者への大きな刺激になると思います。私の夫も全盲の教師で、家事仕事のほとんどを私が行っています。私たちは取り立てて不自由のない生活を送っていますが、ただこの先2人の子どもの教育と、子ども達が私たち夫婦のガイドになってしまうのではないかと、ふっと心が冷たくなるときがあるのです。



(写真撮影と本誌への掲載は本人の許可を得ています)

ネパール現地活動報告

定例活動：

カセットライブラリー事業。小説を中心とした朗読(音訳)CD編集とカセットテープ編集。
今期は、公務員国家試験問題集の音訳に人気が集まった。
隔月点字雑誌タッチ10号、11号の作成と発送

その他の活動

6月21日と22日 日本事務局の高梨さんを迎えて懇親会と意見交換会を開催
初日の夜は、NBSA役員を中心に楽しく飲み会をした。翌日、カトマンドゥ盆地の視覚障がい者とボランティア、とくに若い人を40人以上招待していたが、突然の交通ストの影響で10人足らずの参加であった。短時間であったが様々な意見を交換でき、大変有意義であった。

6月30日 ポカラ市の親の会、フォローアップ会議
会場は昨年同様、アマルシン八学校の盲児教室で行った。参加者9名。かなり活発な親が自発的に集まったが、前回と同じ顔ぶれでポカラの親の会は、どの地方の会よりやる気がある。こんどは自分達で運営資金を集め、学校の教師を招いて会議を開き、親との親密な関係を築きたいとのこと。また、NBSAへ生活自立訓練会の要望も上がった。

7月13日から16日 サノティミ キャンパスの学生フォーラム
これはNBSA独自の催しではないが、メンバー2名が強力にサポートした。ネパールの盲学生は 将来公立の小学校で国語や社会科の教師を目指す者が多い。黒板を使わずに、どのように子ども達に内容を理解させるかが最大の問題点で、学校に宿題や視覚教材を作ってくれる協力者がいないのが欠点だ。実務経験の長い、バクタプル小学校教師サビットリさんの話が大変有意義だったが、テーマがあまりに難解で簡単に解決方法が見つからないまま閉幕した。NBSAはこれら盲教師に、オーディオによる教材など提供できそうだ。

9月5日から8日 生活自立訓練会 会場：キルティプル市の公立学校の教室
受講者：男子12名、女子4名 年齢：16歳～23歳

初日、よその家に呼ばれたときのマナー。室内の移動、食事の作法、落としたものの探し方、お金の管理方法、署名のしかた、爪切り、基本的な手と顔の洗い方など。

2日目 身だしなみと裁縫の第一部 女子の簡単なメイクアップと男子の髭剃り

1年ほど前大学生を中心に行ったときに、髭剃りで顔を切った人がいたので 救急セットも持参し、今回はかなり時間をかけて指導した。幸い顔を切った人はいなかったが、男子のボランティアにも充分注意を払ってもらった。髭剃り後、髪油を髪にすりこみ、髪をとかして仕上げた。ネクタイの結び方：ネパールでは女子も高等学校でネクタイを締めるので全員に覚えてもらった。ここで気が付いた点は、多くの人が受け取ったものをよく触らないこと。ネクタイの裏表を確かめずに絞めている人もいた。昼食を挟んでちょっとだけレクレーションで歌を歌い、裁縫の第一部にかかった。ピアノ線の糸通しの使い方から始めたが、大変に難しく、かなり時間がかかった。その後は運針縫いでこの日は終わった。



3日目 裁縫とアイロンかけの予行練習

前日の裁縫の続き。運針縫いが終わった人から小さなバックを作ってもらい、様々な形のボタンをつけた。特にワイシャツやブラウスのボタンは、万国共通なのでどこへ行っても自分で付け替えができるよう、しっかり学んでもらった。その後、アイロンかけの予行練習。この日はアイロンに電気を通さずに行った。



4日目 アイロンかけ本番

昨日の続きで、今度は実際にアイロンを加熱して行い多くの人がはじめ怖がった。ここでちょっと厄介なことが起こった。校舎の電源がショートしてしまったこと。修理がうまく行かず、アイロンの台数を減らして、時間がかかったがなんとか小グループ単位でアイロンをかけ終わりました。後、軽食を挟んで簡単な閉校式を行い、後は歌ったり踊ったりしながら、楽しく流れ解散。調理は常に要望の高い訓練だが、食材などの物価の高騰、調理燃料の灯油の不足が理由で、今回は実施できなかった。



9月14日 第6回カトマンドゥ子どもの日クイズ大会

ネパールの子どもの日にちなんだNBSA恒例、カトマンドゥ盆地内の学校対校クイズ大会は今年で6回目を迎えました。同等な教育を受ければ 目の不自由な子どもも同等な学力を持っていることを、社会一般に呼びかける、いわば社会啓蒙の意味で始めたNBSAオリジナルな催しです。今年も優勝はキルティプルの統合盲学校。2位のアダルシャ校はわずかな差で優勝を逃しました。皆よく勉強している、改めて感心しました。



ネパールの働く仲間 聾盲教室の教師 スガム・バタライ 32才 男性

スガムさんは カトマンドゥ市内の聾啞者学校で 目と耳の不自由な児童の教育に当たっている傍ら 自ら立ち上げた障がい者の インターネット&リハビリテーションセンターで 音声パソコンの指導とインターネットカフェの運営をしています。パソコンは彼の最も得意なもの。日本点字図書館の研修でもかなり優秀と評価されました。センター設立のアイデアはどこから来ているのか聞きました。

「私は短期間ですが、日本以外の外国にも行ったことがあります。そこで受けたインスピレーションですね。学んだことを人に教えず、自分だけの財産にしてしまう人がいますが、せっかくだから習った技術をみんなで共有したほうがもっと楽しいはず。この辺は外国の人はネパール人よりもっとオープンですね」

このセンターでは身体に障がいのある女性のための、裁縫クラスが一番活発とのこと。現在、視覚障がい者の利用者は決して多い、とは言えないそうですが、このセンターにはパソコン8台と拡大読書機2台を置いています。ネパールには残念ながらネパール語の音声PCがない



のが最大の欠点。インターネットは英語でのアクセスしかできないのですが、将来はネパール語のソフトの開発も手がけてみたい、とスガム君の夢は大きい。がんばれスガム君！（写真は拡大読書機器でネパール語の新聞を読むスガムさん）

在日ネパール大使館からのお知らせ（10月10日現在）

ネパール・観光ビザ規制変更のご案内

ネパールへ渡航するためにはインド国籍の方以外は必ずビザが必要です。ビザの所得には次の2つの方法があります。A. 日本で事前に取得する。B. ネパール到着時に空港または陸路国境地点で取得する。

ビザの種類	滞在可能期間	東京・福岡で取得する場合の料金	大阪で取得する場合の料金	ネパールで取得する場合の料金
マルチプルビザ 滞在可能期間内であれば何度でも 出入国可能	15日間	3,000円	3,300円	US25ドル(現金)
	30日間	5,000円	5,500円	US40ドル(現金)
	90日間	12,000円	13,200円	US100ドル(現金)

ネパールの最新ニュースや時事解説は、毎月配信しているNBSAネットニュースに掲載しています。ホームページの“活動報告、ニュース、会報等”の欄も合わせて御覧ください。<http://NBSA.sakura.ne.jp/>

有り余る水資源を持ちながら、なぜ停電が頻発するのか？

JICA 専門家（電力開発） 尾崎行義（電力公社勤務）

本誌面をお借りして、ネパールの電力事情と電力不足についてお話をさせていただきます。

ネパールは水資源の宝庫 有り余る水資源

“世界の屋根”と称せられるヒマラヤ山脈の懐深くに位置するネパールは、その地形的要因から、6月～9月のモンスーン・シーズンにベンガル湾で発生する多量の水を含んだ雨雲がヒマラヤ山脈にぶつかり多量の降雨（年間5,000 mmを超える地域もあり、標高が高くなると降雪となる）をもたらす、水資源に恵まれた地域である。この水資源は“白い石炭”あるいは“白い石油”と言われ、他にこれと言った天然資源を有さないネパールにとっては唯一貴重な資源である。ネパールの全ての河川は聖なる大河ガンジス川（平均流量：14,300 m³/s）へ流入し、その平均流量の40%以上（乾期にはその70%以上）をネパールから流下する河川水が占め、ガンジス川流域を含めた南アジア地域（インド、バングラディシュ）の社会生活上きわめて重要な役割を果たしている。ネパールにある6,000以上の河川のうち、主なものはチベット高原を源流

とするコシ川、ガンダキ川、カルナリ川の3大河川（これら3河川の流域面積を合わせると国土面積の7割を占める）とネパール極西部のインド国境を流下する国境河川のマハカリ川である。それ以外の多数中小河川はネパール南部を東西に走るマハバラート山脈を源流としている。これらすべての河川は東西に大きく蛇行を繰り返しながら、南北200 km 足らずの間で落差5,000 mを急流下しており、水力発電に最適な条件を備えている。これら河川が生み出す理論的包蔵水力は83,000 MW（1,000 MW級大型原子力発電機の83基分に相当）、そのうち技術的、経済的に開発可能な包蔵水力は42,000 MW（同42基分に相当）であり、世界に残された数少ない包蔵水力の豊かな地域となっている。また、水力発電は昨今地球温暖化の原因の一つとされるCO₂を排出しないクリーンエネルギーとしても世界から注目されている。

それでも年がら年中停電

しかしながら、有り余る水資源を持ちながら、河川流量の多い雨期にも係わらず、今年は週31時間の計画停電を強いられている。なぜか？ネパールの現時点における発電所の総設備容量は617 MW（うち、水力発電設備は564 MW）に過ぎず、これは最新鋭の原子力発電所あるいは大型火力発電所の一基（1,000 MW～1,300 MW）分にも満たない設備容量であり、開発可能包蔵水力（42,000 MW）の99%が未開発（未利用）の状態にある。言い換えれば、毎日、貴重な水資源の99%を有効利用することなく、垂れ流しているのと同じことになる。一方、ピーク需要は実績年約9%の伸び率を示し、2007/08年度は720 MWであり、当日断面の供給可能能力551 MW（発電

設備出力：450 MW^注）、インドからの電力輸入：101 MW)との差169 MWが電力供給不足となって、計画停電を余儀なくされている。注）発電所の故障や河川流量の不足で、設備能力100%の発電は出来ない。このピーク需要に供給能力が追いつかない（新規発電所の建設が追いつかない）最大の原因は、発電所建設資金の手当てが出来ないこと、政情不安から民間投資家が出資しないことにある。発電所の建設資金は1 kW 当たり2,500～3,000ドルであり、100 MWの発電所を建設するためには250～300億円の資金が必要になる。2008/09年度の国家予算、3,800億円と比較すれば、1箇所の発電所を建設することがいかにネパールでは大変か理解されるであろう。

今後、電力需要の伸び率を10%と予想すると、その需要増を賄うためには毎年70 MW～100 MWの新規電源が必要となる。残念ながら、現在建設中の主な発電所はミドルマルシャンディ（70 MW、2008/09年完成予定）、チャメリア（30 MW、2011/12年完成予定）、クリカニ III（14 MW、2011/12年完成予定）の3地点のみであり、とても需要増を賄うだけの新たな発電所が完成する見込みがないことから、少なくとも今後当分の間（4、5年）は計画停電を強いられることになる。

おわりに 先日、“プラチャンダ”首相がインドを訪問した際、今後10年間で10,000 MWの水力開発を行う旨の発言をしている。ネパールの経済発展の原動力として、この世界で数少ない豊かな包蔵水力（クリーンエネルギー）を大いに活用されることを期待して止まない。以上

エベレスト・トレッキングの魅力

ナマステ! モンスーン(雨季)前の 5/14~21 日にかけてネパールの北東に位置するクーンブ地方へ行きました。見所として有名なのはエヴェレスト・ベースキャンプ、これに程近いカラパタール(5550m)、真っ青なポカリ(池)が印象的なゴーキョ・ピーク(5360m)とそれぞれのルートがあります。途中の村々にはバッテリーと言われる茶屋兼ロッジがあり、疲れた時には美味しいミルクティーを飲んで一休みしたり、そのままそこに泊まりながら目的地まで歩きます。日本では、あまり経験することのない 3000m ラインよりも高い高度での行動となるため、高所順応をしていく必要があります、それぞれのコースを往復するためには通常 10 日から 2 週間ほど日数がかかります。今回は事前に 6000m ラインまで順応を済ませていたこともあって残りの滞在日をフル活用した”ぐるり周回コース”を辿りました。

カトマンズから朝 1 番の 15 人乗りジェット機に揺られることわずか 4 0 分程でルクラ空港(現 テンジン・ヒラリー空港 標高 2840m)に到着。タラップから降り立つと肌寒い空気がからだを包み込み、高度の違いを感じます。エベレスト街道沿いのコースは道幅も広く整備されているためとても歩きやすく、足元に咲く紫色のサクラ草に終始元気をもらいながらの登りが続きます。見渡す限りの山々と自然には、思わず口元が弛んでしまい「こんな日が続けばいいのに…」と思うのですが、そうはいかないのが現実。せめて 1 日 1 日を精一杯楽しもう! と心に誓います。

初日はルクラからナムチェ、エベレストビューホテルと越えてサナサで 1 泊、15 日は下痢と発熱のためお昼前にデボチェのクリニックにてドクターストップとなり、水分摂取のために起きるのみで 20 時間ほど昏々と眠りつづけました。ルート上には所々に自宅を兼ねた救護所があり、血中酸素濃度、心拍数、体温、血圧などのチェックと医薬品を備えているためとても便利です。費用は昼夕朝と 3 回の検診と薬をもらって 300Rs ルピー(約 500 円)支払いました。

16 日には熱も下がったのでゆっくり歩きで進みロブジェまで、17 日はカラパタールから蒼い空をバックにエベレストの眺めを堪能してゾンラという村の宿に泊まりました。そこから峠を越えて霧深いゴーキョに向かい、翌朝に大岩がゴロゴロしたゴーキョ・ピークに上がって宝石探しと日向ぼっこをしてターメへ下ります。帰りは天候不良のため小型ジェット機が飛ばず、しょうがないからとガイドの親戚がやっている茶屋で地酒のチャンと卵、香辛料のガラムマサラを混ぜたお酒をたらふく飲んで延泊、翌朝は霧と雲に覆われて諦めかけたのですが、昼前に陽が差し込んで雲が晴れたので無事カトマンズ市内に帰ることができました。

トレッキングの楽しさは思わず深呼吸をしてしまうその雄大な景色はもちろんですが、道々で出会った村人や庭先で遊んだり、家の用事を手伝う子どもたちとの触れあい、一期一会の出会いなど日本とは違った考え方や生活風景が感じられた旅でした
投稿 辰巳 恵美子 さん



ネパールよもやま話 ネパール音楽の魅力 ネパール大好き！8月にネパール来た小島純子さんの投稿です

私は今25歳ですが、小学生のときからネパールとネパール音楽が大好きでした。私が盲学校の小学部で学んでいたとき、同じ学校にネパールからの留学生がいました。彼女はお姉さんのように優しく私をかわいがってくれました。歌が上手で音楽好きな彼女が、毎日のようにネパールのいろいろな歌を歌ってくれたり、一緒に音楽を聞いたりしました。

私はすぐにネパールの音楽に熱中し抜け出せなくなりました。ネパール音楽の魅力は、親しみやすいメロディーときれいな言葉の響きだと思います。メロディーは、日本の音楽よりも私の心身の奥にある何かを呼び覚ますようです。たとえば、にぎやかなフォークソングを聴くと、何かに動かされるように、体が勝手に動いて踊りだしたくなるし、センチメンタルな歌謡曲を聴けば、歌詞の意味がよくわからなくても自然と心の底から寂しさが湧き上がってきます。要するに、DNAに組み込まれた何かに突き動かされるような音楽なのです。

私は特にアドニックギートという、ネパール人の恋愛や人生などを歌った、丁度日本の演歌のようなジャンルが好きでよく聴いています。特に、Hamera Kina という、失恋の悲しみを歌った歌が一番好きです。さて、私はこの夏休み、小学校時代からずっと行きたかったネパールに初めて旅行しました。ネパールでは、NBSA を訪問し、とても歌の上手な視覚障がいのある学生さんにロックギート、民謡を歌って聴かせてもらったり、太鼓の演奏に合わせてみんなで歌ったり楽しい時を過ごしました。また、スワヤンプの土産物屋でサーランギを弾いている人に会い、生演奏を聴き、CDで聴くのとは違う柔らかな音や温かみのある演奏に感動しました。これまでは主に音楽をCDやテープで聴くだけでしたが、これからは、いろいろな歌を覚えて自分で歌ったり、ネパールから持ち帰った太鼓で演奏できるようになって、日本の友人と一緒に楽しめたらいいと思います。日本の視覚障がい者のみなさん、ネパールは日本に比べるとまだまだ道がでこぼこだったり交通が不便だったりして障がい者が一人で歩くのは難しいのですが、人々が温かく優しい国です。私は今回一人で行きましたが、たくさんの人たちに助けってもらったおかげで、安心して旅を楽しめました。みなさんも、素敵な音楽と温かい人たちとの出会いに是非ネパールに行ってみてくださいね。そして、みなさんにとってのネパールの魅力を今度は私に教えてください。



ネパールよもやま話 YAの失敗しちゃったネパールその3 物をあげるお作法

ネパールではものを乗せた手の上に、もう片方の手をひじあたりへのせます。正式には右手であげるものを持ち、左手を右手へのせます。その動作がすばやい！私は初めてこれを見たとき、なんだか手品みたいで、ふざけているのかと思ってしまった。日本も昔は人にものをあげる時、両手を添えていましたが、今ではほとんど行われなくなった習慣ですね。

人にものをあげるのは本当に難しい。日本からのお土産で、手軽できれい、しかも大勢の人にあげられるのでハンカチが便利と思い、何度かハンカチを持って行きましたが、あまりウケがよくなかった。ハンカチは涙を拭くもの、別れを意味するものだそうです。結婚式や誕生日なので、一番喜ばれるのは率直に言ってお金。なんだが味気ないが一番うける。正直でよろしい。

NBSA カトマンドゥーからのお知らせ

NBSA ネットニュースをご存知ですか？NBSA は年3回の会報の郵送とは別に、メールによるニュースを、月1回カトマンドゥー現地から日本語で配信しています。毎月の活動報告の他に、ネパールの時の動き、文化や文学等の紹介も行っています。音声パソコン対応の編集をしていますので、誰でもスムーズに受信できます。受信をご希望の方は、直接 NBSA カトマンドゥーにお申し込みください。ネットアドレス：NBSA@mail.com.np または yorikonepal@hotmail.com

事務局だより

事務局担当 高梨憲司

「天高く馬肥ゆる秋」と言いますが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。何時も NBSA の活動にご支援をいただき、感謝申し上げます。原油価格の高騰に伴う諸物価の高騰や、米国のサブプライムローンに端を発した金融不安など、世界経済の行方が定まらない今日この頃ですが、アジアの最貧国ネパールの障害者の生活は一層深刻な状況ではないかと推察します。そこで、「日本事務局としては少しでも支援の輪を広げる努力をしなければ」と考え、ささやかな活動を開始しました。その一部をご紹介します。

日本網膜色素変性症協会（JRPS）千葉県支部の総会における広報活動：去る7月5日に千葉市の美浜文化ホールで開催された JRPS 千葉県支部の総会で、「ネパールの視覚障がい者と国際交流」と題する講演をさせていただき、併せて NBSA の活動紹介と入会案内をしましたこれによって会からご寄付をいただいた他、2名が入会されました。

アイフェスタ in 千葉での入会案内とカンパ活動：去る10月5日に千葉市のハーモニープラザにおいて開催された JRPS 千葉県支部主催のイベントで NBSA の入会案内と募金活動を行いました例年に比べて参加者が少なく低調でしたが、4千円の募金があり、10数名の方が資料をお持ちになりました。

まだまだ始まったばかりの小さな活動ですが、「塵も積もれば山となる」の思いで頑張ります。皆様の一層のご支援をお願い申し上げる次第です。

会費の納入方法：郵便局に備え付けの「郵便振替口座払込取扱票」を用いて、口座記号番号 00190-7-762775 加入者名 ネパールの視覚障害者を支える会（3万円未満までは80円、それ以上は290円の振り込み手数料が必要です）

Nepal Blind Support Association (NBSA) P.O.Box:8974 PCN-111 Kathmandu, Nepal Tel:977-1-4425-709 E-mail: NBSA@mail.com.np / yorikonepal@hotmail.com

日本の事務局： 〒284-0005 千葉県四街道市四街道 1-9-3 視覚障がい者総合支援センターちば内 NBSA 電話:043-424-2501 Fax: 043-424-2486 事務局担当者 高梨 憲司 NBSA HP： http://NBSA.sakura.ne.jp/
--

維持会費：個人会員年間 6,000 円 / 協会員年間 3,000 円 / 法人会員年間 15,000 円 振込先：口座記号番号 0019-7-762775（ネパールの視覚障害者を支える会）
--